

# かけがえのない野球に ずっと関わっていたい

元秦野市職員

小泉馨さん (62歳)  
平成24年3月定年退職

【こいずみ かおる】昭和26年、神奈川県生まれ。昭和45年、秦野市役所入庁。企画部、福祉部、教育総務部などの職および会計管理者を歴任。勤務のかたわら神奈川大学第二経済学部で学び、昭和49年卒業。プライベートでは、秦野市野球協会役員として協会創立60周年及び80周年記念誌の発行に関わり、平成22年に同協会の副会長、平成25年に会長に就任。神奈川県選層軟式野球の強豪チーム「秦野遊球倶楽部」では選手として活躍している。



—小泉さんが定年後の生活について、具体的に考えられたのはいつですか。

定年の1年ほど前です。定年退職後は、長年携わってきた秦野市野球協会の運営はもとより、還暦軟式野球「秦野遊球倶楽部」への入部など、野球に関わる生活を送りたいと考えていました。

—現在、何かお仕事をされているのですか。

定年直後の4月から、秦野市ふるさとハローワークで相談員として働いています。「秦野市ふるさとハローワーク」は、厚生労働省所管の公共職業安定所「ハローワーク松田」の出先機関として、求人に対する求職者の相談、紹介業務のほか、求職者に関する行政相談などを行っています。私は非常勤特別職として任用されています。

—野球のほうは、いつから始められたのですか。

小学校低学年のとき伯父の影響で始め、中学、高校と野球部一筋で白球を追ってきました。市役所に入庁してからも、職場におられた高校時代の野球部の先輩に誘われて野球を続けてきました。

—審判員としても、野球に関わっていらっしゃったんですね。

そうです。かつて高校球児として、3年間お世話になったグラウンドで何か球児たちにお返しができないかと思っていただけろ、諸先輩方から「審判をやってみないか」と声を掛けていただいたことがきっかけとな



平成25年4月、秦野市野球協会会長に就任。「協会運営に対して身の引き締まる思いと同時に、その責任の重さを痛切に感じています」と小泉さん

り、始めました。

以来、審判員として、高校生の青春、汗と涙と感動を身体いっぱい受け止めながら、選手たちと同様に一年一年勝負のつもりでグラウンドに立ってきました。球審を務めるときは、投手の胸にボールを返し、グラウンドに立ったときは、選手をリードできるような一生懸命グラウンドを走ることを心がけています。そのため、普段から体力向上には人一倍努めてきました。それほどやっても、これまでに満足できるジャッジなど1試合もありません。野球の審判員は本当に奥が深く、だからこそ長く続けてこれたのではないかと思います。

—所属されている秦野市野球協会は、どのような組織ですか。

市内に在住・在勤の社会人等で編成された73チームが所属しており、傘下には秦野市少年野球連盟もあります。そのうち審判部には審判員40名が所属しています。

—その秦野市野球協会に、小泉さんは

●1日のスケジュール

【勤務のある日】

5:40	起床
	約1時間かけて5kmを徒歩通勤
8:30~17:00	勤務（ハローワーク相談員）

【勤務のない日】

5:40	起床
9:00~12:00	秦野遊球倶楽部 練習

●1週間のスケジュール

月曜～金曜	ハローワーク勤務、秦野遊球倶楽部練習
土・日曜	秦野市野球協会、神奈川県野球連盟大会、公式行事に従事。その他、還暦野球公式試合に参加



還暦軟式野球「秦野遊球倶楽部」のメンバーと共に（後列左から6人目が小泉さん）

どのような形で関わってこれたのですか。

審判員として28年間携わる中で、平成6年に秦野市野球協会審判部長、平成22年に副会長、平成25年からは会長に就任しました。並行して、平成19年から神奈川県野球連盟でも審判部技術員を務めています。横浜スタジアムで行われた第90回全国高校野球選手権神奈川県大会決勝戦で三塁塁審を任された

平成22年7月に開催された第92回全国高等学校野球選手権神奈川県大会でも審判を務めた



れたときは、延長13回、4時間以上にも及ぶ激闘となり、一生忘れられない試合となりました。

——秦野市野球協会の会長として、今後取り組んでいきたいことは何ですか。

ピーク時には130あったチームも現在は73チームとほぼ半減していますので、チームを増やしていきたいというのが一つ。二つ目は、若い世代の審判員の養成です。体力と判断力が求められる審判員、特に高校野球登録審判員には定年制が設けられているのですが、高齢化が進み、毎年定年で辞めていく方が増えています。このままでは審判が足りなくなってしまう事態にもなりかねないので、次の時代を担ってくれる審判員を増やしていきたいと考えています。

——審判員の世界でも高齢化による課題があるのですか。ところで、退職後に入部された「秦野遊球倶楽部」とは、どのような組織なのですか。

60歳以上のみ参加できる還暦軟式野球の地元組織です。還暦軟式野球では、一般社会人及び高校軟式野球が使うAボールに比べ直径が小さく重さが軽いBボールを使用球とし、基本ルールは一般の軟式野球規則とほぼ同じです。還暦軟式野球連盟はほぼ全国で組織されていて、その取りまとめを行う全日本還暦軟式野球連盟もありますよ。

秦野遊球倶楽部は、野球を通じて健康と体力の保持をはかり、部員相互の親睦を深め、地域社会の構成員としての責務を果た

すことを目的に平成7年に結成されました。還暦のメンバーでは監督・マネージャー、選手が30名、同じく古希のメンバーでは30名の総勢60名が所属しています。還暦のメンバーの中には、若い頃に、平成7年の福島国体、平成8年の広島国体の壮年の部オール神奈川として活躍したメンバーもいます。私もその中の一人です。年間を通して、週2日の練習、30以上の公式試合を行っています。

——小泉さんにとって野球とは何ですか。何もかも自分を育ててくれた、かけがえないものです。

——退職後の生活を充実させるために必要なことは何だと思えますか。

まずは健康管理でしょうね。私は今から6年前の市役所在職中から、職場までの往復9kmを徒歩で通勤していました。現在の職場に変わってからも、往復10kmを2時間掛けて歩いていました。

——野球以外に、健康のために取り組まれていることはありますか。

1年を通じて歩くことを中心に身体を動かす、汗を流して新陳代謝をよくすることに心がけています。徒歩通勤もその一つです。

——最後に、現役の地方公務員の方にメッセージをお願いします。

全体の奉仕者として、日頃から市民目線で考え、市民の期待に応えられる充実した仕事をしていただきたいですね。

——ありがとうございました。